

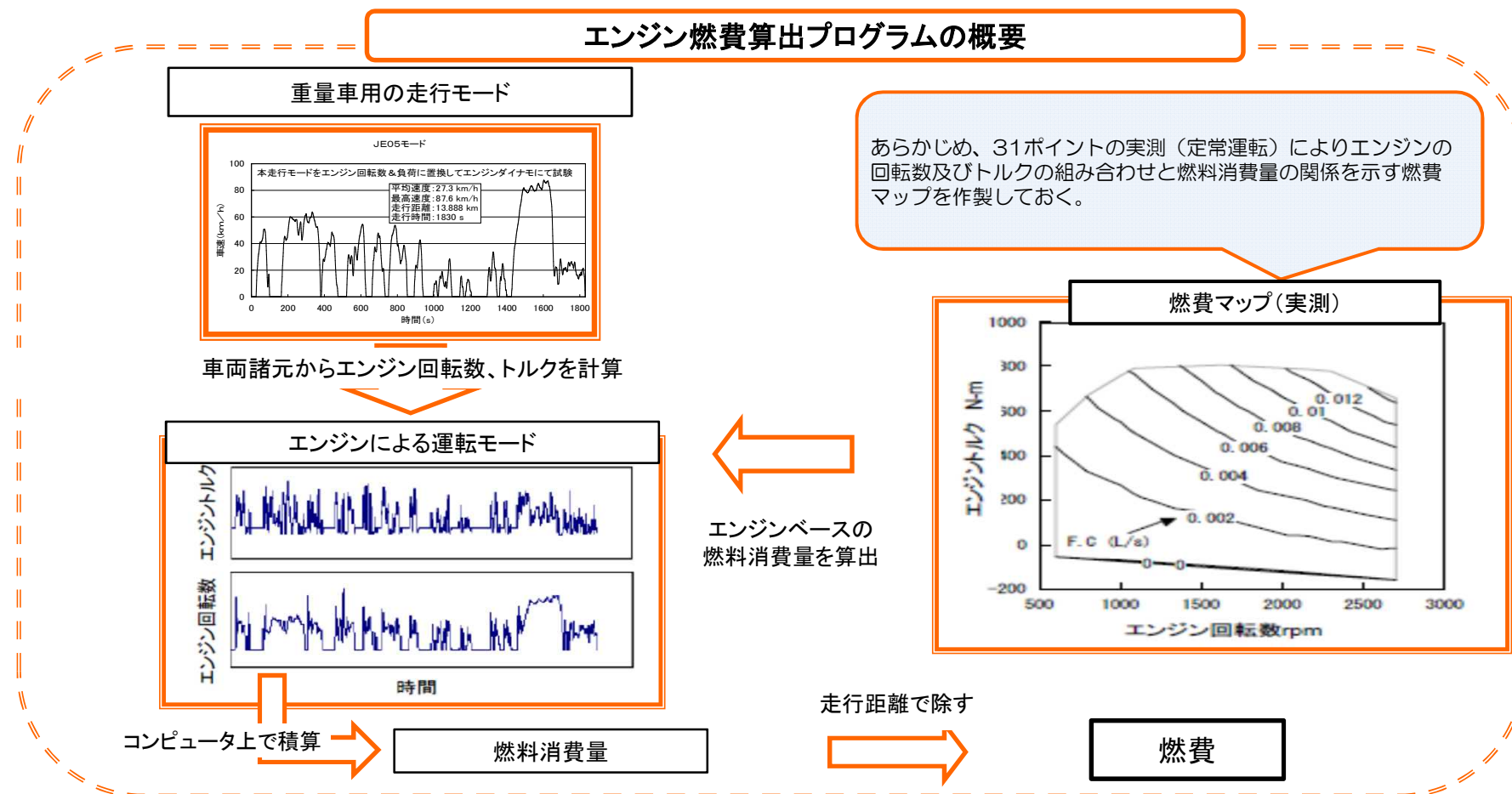
# 新たな重量車燃費測定方法について(案)

---

# 1. 現在の燃費測定法と課題

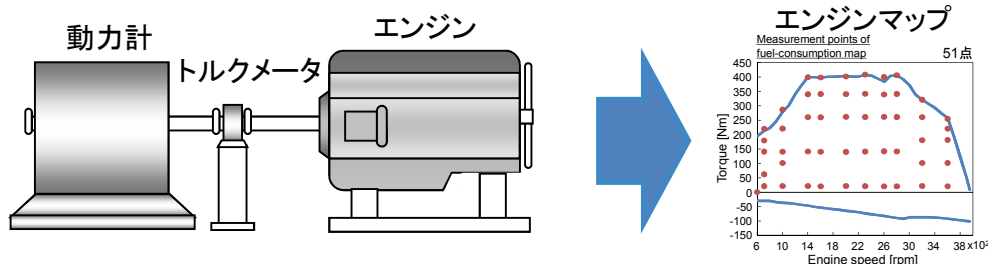
- 現行の重量車燃費測定法は、重量車用の走行モード(都市内走行モード(JE05モード)、都市間走行モード)をエンジン回転数・トルクに換算し、燃費マップ(実測)上で走行状態をシュミレートする測定法を採用
  - ⇒ **実車における空気抵抗・転がり抵抗測定値の反映等、測定法の更なる精緻化が必要**

## エンジン燃費算出プログラムの概要



あらかじめ、31ポイントの実測(定常運転)によりエンジンの回転数及びトルクの組み合わせと燃料消費量の関係を示す燃費マップを作製しておく。

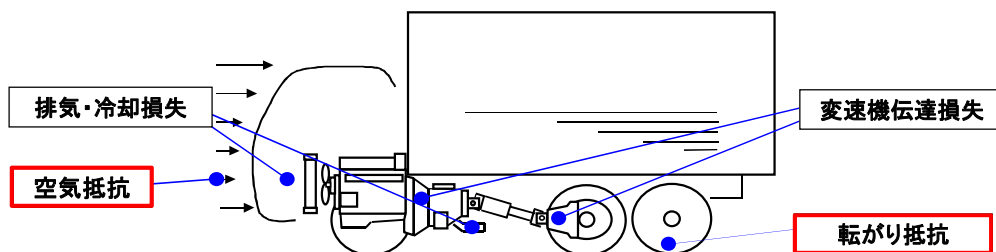
## ① エンジンマップの計測点数の追加



(現行)エンジンマップの計測点数は31点

高精度化のため、**51点に変更**

## ② 実測値の反映によるエネルギー損失の精緻化



(現行)区分毎に一律値を設定

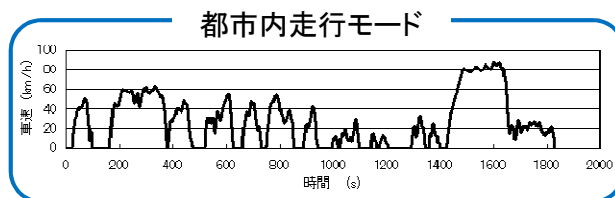
**車両の空気抵抗、タイヤ単体の転がり抵抗の実測値を反映**

## ③ 走行実態に応じた高速走行比率、乗車率・積載率の更新

例) 3.5t超7.5t以下のトラック



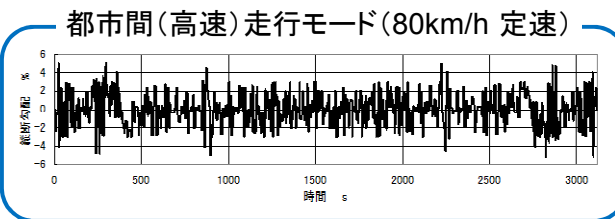
高速走行比率: 10% → **15%**  
積載率: 50% → **45%**



例) 14t超16t以下の一般バス



高速走行比率: 35% → **55%**  
乗車率: 50% → **65%**



(現行)2003年度の走行実態に基づき、高速走行比率、積載率を決定

平成27年度調査のデータを反映